



艾青全集

第四卷

绿洲笔记 书信

花山文艺出版社

一九九一年·石家庄



一九七九年艾青在维也纳



一九五四年艾青在智利（左一）苏联





艾青早期美术作品

目 录

绿 洲 笔 记

自序	(3)
荒原(第一部)	(4)
荒原(第二部)	(51)
第一犁	(108)
胡奇与凌淑贞	(135)
山东来的黄毛丫头	(156)
俺是吃地瓜长大的	(172)
你是兔子我是蛇	(191)
决口	(214)
调车	(219)
秀才开荒	(227)
荒原的路	(258)
两个女大学生	(273)

第四卷·绿洲笔记 书信

凌淑贞参观归来	(301)
“地窝子”和“大观园”	(305)
周国良	(325)
比赛的哲学	(333)
驯“虎”记	(355)
包成德	(383)
她好像想起了什么	(396)
和虫赛跑	(410)
王二虎的故事	(428)
二十九号条田	(441)
一面小镜子	(462)
麦海激战	(470)
输血记	(488)
救马记	(494)
北飞的大雁	(505)
对准镜头笑吧	(513)
“到黄羊湾去!”	(525)
沙漠在退却	(533)

书 信

一九三八年

致 S	(545)
-----------	-------

一九三九年

- 致常任侠 (549)

一九四〇年

- 致常任侠 (553)
- 致姚蓬子 (555)
- 致靳以 (556)

一九七二年

- 致雯娟 (559)
- 致济、涛二弟 (561)
- 致雯娟 (563)
- 致海济 (565)

一九七三年

- 致雯娟 (569)
- 致雯娟 (571)
- 致李纯青、谈家芳 (572)
- 致徐勇良 (573)
- 致雯娟 (574)
- 致李纯青、谈家芳 (576)
- 致徐勇良 (578)
- 致徐勇良 (579)

第四卷·绿洲笔记 书信

一九七四年

致徐勇良 (583)

一九七五年

致徐勇良 (587)

致徐勇良 (589)

一九七六年

致徐勇良 (593)

致徐勇良 (595)

致徐勇良 (596)

致徐勇良 (598)

致海济 (600)

致徐勇良 (602)

致徐勇良 (603)

一九七七年

致蔡其矫 (607)

致吕剑、宗珏 (609)

致徐勇良 (610)

致苏金伞 (612)

致徐勇良 (613)

致徐勇良 (614)

目 录

致徐勇良	(615)
致徐勇良	(617)
致徐勇良	(619)
致苏金伞	(621)
致徐勇良	(623)
致徐勇良	(625)

一九七八年

致苏金伞	(629)
致徐勇良	(631)
致徐勇良	(632)
致涂乃贤	(634)
致苏金伞	(635)
致涂乃贤	(636)
致徐勇良	(638)
致苏金伞	(640)
致涂乃贤	(642)
致徐勇良	(644)
致涂乃贤	(645)
致麦芒	(646)
致贵州朋友	(647)
致涂乃贤	(649)
致涂乃贤	(650)
致涂乃贤	(652)

[illegible]

致吕剑 (655)

致徐勇良 (657)

致涂乃贤 (659)

一九七九年

致涂乃贤	(663)
致涂乃贤	(665)
致涂乃贤	(666)
致涂乃贤、阿珠	(668)
致马尔科、杜阿美	(670)
致运启	(672)
致聂华苓	(674)

一九八〇年

致苏金伞 (679)

致聂华苓 (680)

致运启 (683)

一九八一年

致聂华苓、安格尔 (687)

致彦涵 (689)

一九八二年

致王載源 (693)

一九八三年

- 致艾德林 (697)
- 致连库 (698)

一九八四年

- 致林刚 (703)
- 致尚德兰 (704)
- 致小禾 (705)
- 致林林 (706)
- 致塞杜·恩迪亚耶 (707)
- 致刘为民 (708)
- 致邓纳·博亚尔 (709)

一九八五年

- 致孟伟哉 (713)
- 致阿尔弗雷多·戈麦斯 (715)
- 致韩笑 (717)
- 致高莽 (718)
- 致陈子善 (719)
- 致梁通 (720)
- 致中树、凤吾 (721)

[illegible]

一九八六年

致林风眠 (725)

致育顺 (726)

致聂华苓、安格尔 (727)

一九八七年

致莫马	(731)
致稻田孝	(732)
致稻田孝	(733)
致李瑛	(734)
致江志方	(737)
致何雷	(739)
致唐祈	(740)
致稻田孝	(741)

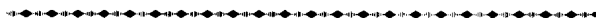
一九八八年

致建平	(745)
致鲁贝亚努	(746)
致柳晟俊	(747)
致费德林	(748)
致浙江美术学院	(750)
致中国美术家协会上海分会	(752)
致梁通	(754)

一九九〇年

致悦然 (763)
致安娜 (765)

绿洲笔记



自序

“当吾生之中年”我曾在新疆度过了二十年，其中有几年的光景，写了一些散文形式的作品，大部分情节都是有所根据，有少数是虚构的。

所写的人物，有些是熟人，也有些是自己塑造的；所发生的事情，多数是真实的。

本来想冠以《沙漠在退却》，是作为纪念军垦战士的功绩的意思。

这样的一些稿子，既不是长篇小说的结构，也不是属于报告文学之类的东西。有人建议称作《绿洲笔记》，因为它多少有点像《猎人笔记》之类的模式，是比较自由的，并非连贯的，是每篇可以独立，可以作为一个个小故事的作品。所以现在定名为《绿洲笔记》。

一九八四年二月二十日北京

荒 原(第一部)

有了人,我们就开始有了历史
——恩格斯:《自然辩证法》

初雪的一天下午,一辆小型军用越野汽车,发出了像老山羊似的“咩”的一声叫喊,驶进了农业建设第一〇八师司令部的大院,在两层砖瓦水泥结构的办公大楼前戛然停住,驾驶室的门一开,走出一个壮年人,“砰”的一声关上车门,迈着艰难的脚步进入办公楼大门。

他戴一顶黑羊羔皮护耳帽,披一件布面羊皮大氅,看上去有三十五六岁,中等身材,方脸,肤色浅褐。正在上楼的时候,从楼梯下来一个服务员,提着暖水壶向他打招呼:“林团长来了。”

那人问他:“江政委在吗?”